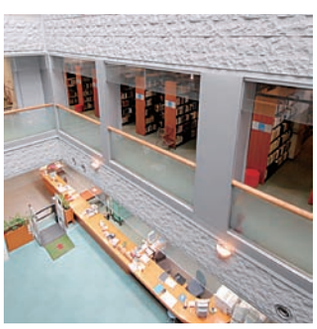
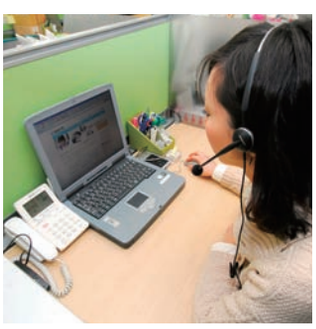
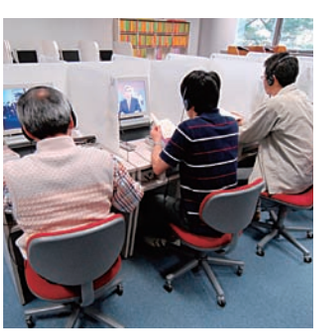
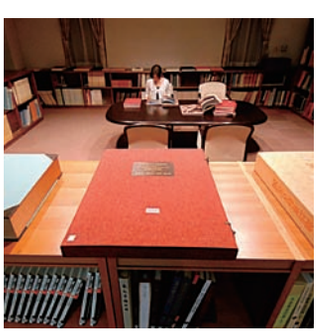
放送大学
アニュアルレビュー2010

The Open University of Japan
Annual Review 2010





放送大学

皇太子殿下行啓について

「大学の窓」スタジオセットにおいて
御手洗理事長らの説明を受けられる皇太子殿下

皇太子殿下は、全国障害者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会」の開会式へのご出席に先だち、10月22日、千葉県の事情をご視察される一環として、放送大学本部を行啓されました。

皇太子殿下は、1989年に挙行した第1回の卒業式にご臨席たまわりましたが、幕張の放送大学本部をご訪問になったのは今回が初めてです。

放送大学では、御手洗理事長から放送大学で学ぶ学生数や設置している学部コース、大学院プログラムなどの大学の概要について説明を受けられた後、放送施設などを視察され、「放送番組は何年間、放送されるのですか？」などと質問されました。

また、皇太子殿下は、石学長及び6人の学生たちと懇談され、学生一人ひとりと言葉を交わされました。

学生と懇談される皇太子殿下

CONTENTS

学長挨拶 ■ 2
ますます豊かになる放送大学の教育内容 ■ 3
放送大学における研究 ■ 10
世界に羽ばたく放送大学 ■ 14
社会への貢献 ■ 16
よりよい教育を目指して ■ 18
eラーニングで学びを豊かに ■ 21
学習センターの動き、この1年 ■ 24
未来に向かう放送大学の動き ■ 31
データで見る放送大学の概要 ■ 33

【編　集】
■放送大学アニュアルレビュー2010タスクグループ
副　学　長　荻野　　博
生活と福祉　臼井　永男（主査）
心理と教育　森　津太子
社会と産業　森岡　清志
人間と文化　井口　　篤
自然と環境　吉岡　一男
ICT活用・遠隔教育センター　川淵　明美
■ 総務部広報課

「放送大学アニュアルレビュー2010」は原則として、2010年1月～12月の放送大学の活動を記録したものです。

学 長 挨 拶

3年目のAnnual Reviewの公刊によせて

2011年3月
学　長

アニュアルレビューの作成も今年で３回目を迎える。そもそもの狙いは放送大学の１年間の活動状況をまとめ、その記録を後の世代へ残しておこうとするものである。とりわけ教職員が短期間に異動する本学にとって、このアニュアルレビューは貴重な年次資料となり、将来「放送大学○○年史」編纂の際には大いに活用されるに違いない。

本レビューは過去１年間、放送大学がどのような教育、研究、学内行政などの諸活動を行ってきたかをまとめたものであるが、特筆すべきこととして以下の3点を挙げたい。

まず第１に、皇太子殿下に本学の幕張キャンパスに行啓いただいた。これは殿下が全国障害者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会」の開会式に先立ち、お越しいただいたものである。当日、御手洗理事長が放送大学の概要の説明と施設の案内にあたり、その後私と６名の学生が殿下と懇談する機会を得た。

第２に、大学評価・学位授与機構による大学機関別認証評価を受けた。原則７年毎に評価を受けねばならないとする「認証評価」制度に従ったものである。その準備として事前に自己点検評価書を作成するとともに、書面調査の結果を踏まえ11月に3名の委員による訪問調査が実施された。

第3に、アジア公開大学連合の2012年年次大会が、放送大学で開催されることになった。これは10月にハノイで開催された2010年年次大会の折、正式に役員会で決定されたものである。帰国後、早速その準備に向けて委員会を設置し、2012年10月16～18日幕張メッセでの開催を目指し活動を開始している。

本レビューは写真も豊富に取り入れられており、楽しくページを追いかけられると思う。是非ご一読いただきたい。

ますます豊かになる放送大学の教育内容

テレビ・ラジオによる授業

放送授業

放送授業は、面接授業と並び、放送大学の教育の中心に位置づけられるものである。2010年度第2学期（2010年10月～2011年3月）には、学部267科目、大学院65科目の合計332科目を開講しており（表1）、原則として4年間（毎年2学期間ずつ、合計8学期間）放送している。したがって、全開講科目のおよそ4分の1ずつが、毎年入れ替わる。2010年度の新規開設科目は、学部48科目（テレビ28科目、ラジオ20科目）、大学院16科目（テレビ8科目、ラジオ8科目）の合計64科目である（表2-1、表2-2）。

■ 表1　2010年度全開講科目数

	第1学期		第2学期	
	テレビ科目	ラジオ科目	テレビ科目	ラジオ科目
学　部	145	121	146	121
	266		267	
大学院	29	36	29	36
	65		65	
合　計	174	157	175	157
	331		332	

■ 表2-1　2010年度新規開設科目一覧（学部）（TV=テレビ、R=ラジオ）

科目区分	系・コース	科目名称	メディア
基礎科目	-	教育と心理の巨人たち（'10）	R
	-	情報の世界（'10）	TV
	-	身近な気象学（'10）	TV
共通科目	人文系	西洋哲学の誕生（'10）	R
		芸術史と芸術理論（'10）	TV
		生命と環境の倫理（'10）	TV
	社会系	社会学入門（'10）	TV
		多様化時代の労働（'10）	R
	自然系	微分と積分（'10）	TV
	外国語	実践英語（'10）-映画とドラマで学ぶ-	TV
		中国語入門Ⅰ（'10）	TV
		中国語入門Ⅱ（'10）	R
専門科目	生活と福祉	住まい論（'10）	TV
		看護学概説（'10）	R
		基礎看護学（'10）	TV
		地域福祉の展開（'10）	TV
		アジアの社会福祉（'10）	R
	心理と教育	現代の教育改革と教育行政（'10）	R
		授業研究と学習過程（'10）	R
		知的障害教育総論（'10）	TV
		心理学史（'10）	TV
		スクールカウンセリング（'10）	TV
		心理臨床とイメージ（'10）	TV
		肢体不自由児の教育（'10）	TV
	社会と産業	著作権法概論（'10）	R
		ヨーロッパ政治史（'10）	R
		現代東アジアの政治と社会（'10）	R
		管理会計（'10）	R
		初級簿記（'10）	R
		アグリビジネスの新たな展開（'10）-豊かな食生活への貢献-	R
		現代都市とコミュニティ（'10）	TV
		社会と銀行（'10）	TV
		財政学（'10）	TV
	人間と文化	功利主義と分析哲学（'10）-経験論哲学入門-	R
		和歌の心と情景（'10）	TV
		情報ネットワークとセキュリティ（'10）	R
総合科目	自然と環境	分子の科学（'10）	R
		太陽系の科学（'10）	TV
		地球のダイナミックス（'10）	TV
		代数の考え方（'10）	R
	-	Political Economy of Japan（'10）-Growth, Challenges and Prospects for a Well-Being Nation-	TV
	-	地球的課題と法（'10）	R
	-	社会の中の芸術（'10）	TV
夏季集中科目	看護師	母性看護学（'10）	TV
		小児看護学（'10）	TV
		成人看護学（'10）	R
	司書教諭	学習指導と学校図書館（'10）	TV
		情報メディアの活用（'10）	TV

■ 表2-2　2010年度新規開設科目一覧（大学院）

プログラム名	科目名称	メディア
生活健康科学	健康科学の史的展開（'10）	TV
	社会福祉研究（'10）	R
	現代の福祉政策（'10）-担い手の役割と責任-	R
生活健康科学臨床心理学共通	精神医学特論（'10）	R
人間発達科学	才能と教育（'10）-個性と才能の新たな地平へ-	TV
	コミュニティ教育論（'10）	TV
	生涯学習の理論と実践（'10）	TV
臨床心理学	家族心理学特論（'10）	R
社会経営科学	公共哲学（'10）	R
	社会経済組織論（'10）	R
	都市環境デザイン論（'10）	TV
文化情報学	人類学研究（'10）-環境問題の文化人類学-	TV
	哲学史における生命概念（'10）	R
	東アジアの歴史と社会（'10）	TV
自然環境科学	生命環境科学Ⅰ（'10）-生物多様性の成立ちと保全-	TV
	計算論（'10）	R

特別講義

各学問分野の第一人者が、その学問について深く掘り下げて講義する特別講義を放送している。2010年は新規開設14講義（テレビ6講義、ラジオ8講義；表3）を含む、全109講義（テレビ59講義、ラジオ50講義）の特別講義を放送した。

表3　2010年度新規開設特別講義

講義題目	講　師		
近世長崎の翻訳システム	放送大学長崎学習センター客員教授	若木　太一	TV
地域学シリーズ 神仏習合の島〜世界文化遺産・厳島〜	龍谷大学教授	岸田　裕之	TV
沈黙のアフリカ人女性〜帝国と亡国の狭間で〜	甲南大学教授 名古屋大学准教授	井野瀬 久美恵 大石　和欣	TV
ドストエフスキーと現代	東京外国語大学学長	亀山　郁夫	TV
江戸時代のからくり文化〜座敷からくりに見る日本のエンジニアの源流〜	江戸からくり復元師 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター教授 フリーライター、オートマタ・からくり研究家	峰崎　十五 後藤　静夫 村上　和夫	TV
チンパンジーの心・ヒトの心〜人間の本性の霊長類的起源〜	京都大学霊長類研究所所長	松沢　哲郎	TV

講義題目	講　師		
大奥と江戸文化	東京学芸大学教授	大石　学	R
仏教道徳が伝えるもの（1）「十善戒」の教え	哲学者	梅原　猛	R
仏教道徳が伝えるもの（2）「六波羅蜜」の教え	哲学者	梅原　猛	R
海事社会と人材流	神戸大学大学院名誉教授	井上　欣三	R
豊かな老いを考える〜フィールドワークの現場から〜	京都大学東南アジア研究所教授	松林　公蔵	R
地球上最大の動物、クジラ	日本鯨類研究所顧問	大隅　清治	R
脳の働きから学ぶ身体の健康と心の健康	群馬大学教授	高山　清茂	R
人生を豊かにするための歯科治療の改革	東京医科歯科大学名誉教授	中林　宣男	R

インターネット配信

2007年度からは、在学生用ホームページ（キャンパス・ネットワーク・ホームページ）で、授業科目のインターネット配信（ストリーミング配信）を開始した。配信科目は年々増えており、ラジオ科目では、ほぼすべてをインターネット配信している。2010年度の配信科目数は、テレビ38科目、ラジオ146科目、特別講義43講義である（表4）。

表4　2010年度のインターネット配信科目数

	テレビ	ラジオ
学　部	34	111
大学院	4	35
特別講義	0	43
合　計	38	189

寄附科目

放送大学では、様々な機関からの支援を受け、社会の要請に応じた寄附科目を開設している。2010年度には、5科目の寄附科目を放送した（表5）。

表5　2010年度開設寄附科目一覧

科目名	寄付団体名	メディア
著作権法概論（'10）	一般社団法人 日本音楽著作権協会	R
消費者と証券投資（'07）	日本証券業協会	TV
組織運営と内部監査（'09）	社団法人 日本内部監査協会	TV
社会と銀行（'10）	全国銀行協会	TV
特別講義：うま味発見100年〜その先端科学を探る〜	味の素株式会社 ライフサイエンス研究所	TV

対面による授業

面接授業（スクーリング）

面接授業は、放送授業とともに放送大学の教育の中心に位置づけられるものであり、全国50ヵ所の学習センターと7ヵ所のサテライトスペースで開講している。2010年度の開講科目数は、2,645科目（1学期1,313科目、2学期1,332科目）である。これらの開講科目は、教養学部という特性に応じた幅広い内容のものであり、授業形態も通常の講義や実験だけでなく、フィールドワークや施設見学など多彩である。また、入学前の一般の人に聴講の機会を提供する「共修生制度」も、2010年度から正式に学習センターで始まり、放送大学の学生が地域の人々と共に学ぶ場となっている。

面接授業科目は、全国の学習センターで企画・立案しており、各地の歴史や文化、産業、自然など、地域に根ざした独自科目を開講している。2010年度は、それらの科目に加え、「初歩からのパソコン」という統一科目を開講した。これは、放送大学が提供しているパソコンやインターネットを利用した学生サービスを、これまで以上に多くの学生に享受してもらうためであり、また情報化時代と言われる現代の時代的要請に対応できる学生を育成するためでもある。2011年までに全国すべての学習センターで開講の予定だが、すでに開講された学習センターでは、募集定員を上回る希望があり、学生の要望の高いことがわかる。

また2010年度からの新たな試みとして、空席のあった面接授業に限り、開講日の1週間前まで追加登録をできるようにした。さらに定員を大幅に超える申し込みがあった科目については、同じ学期の別の時期にもう一度、同じ科目を開講することとし、意欲ある学生に、できるだけ多くの学習機会を提供できるよう、常に制度の見直しを図っている。

「初歩からのパソコン」の授業風景

興味・関心に合った科目を選びやすく

授業科目案内、科目検索システム

放送大学では、多様な授業科目の中から、学生が自分の興味・関心に合った科目を履修できるよう、さまざまな工夫をこらしている。2010年度からは、新設科目を中心に、放送授業のねらいや見どころ、学習のアドバイスなどを担当講師が解説する番組「授業科目案内」を制作し、テレビで放送するとともに、インターネットでも配信している。またウェブサイトには、「科目ナビ」を設け、さまざまな条件で放送授業科目を検索ができるようにした。面接授業についても、全国で開講されている科目の中から、内容や開講場所、日時などが検索できるようになっている。これにより、「専門分野を体系的に学びたい」「資格取得をめざしたい」「近隣の学習センターで面接授業を受講したい」など、学生ひとりひとりのニーズに合った科目選びがさらにしやすくなった。

「授業科目案内」の様子

「科目ナビ」のトップ画面

誰もが心地よく学ぶために　特別な支援が必要な学生への学習支援

放送大学では、ハンディキャップを持つ学生が学習機会を阻害されることがないよう、さまざまな学習支援体制を整えている。たとえば、聴覚障がい者に対しては、テレビ授業科目において字幕番組を提供している。2010年度第2学期で字幕を付しているのは54科目であり、これは全テレビ科目の約31%である。特別講義についても59科目中20科目（約34%）に字幕を付している。

また単位認定試験時には、ハンディキャップの程度に応じて、別室受験、試験時間の延長等の特別措置を講じている。たとえば音声あるいは点字での出題については、2010 年度第１学期単位認定試験時の音声出題の対象科目数は77科目で、対象となった学生数は延べ112名であり、点字出題の対象科目数は88科目、対象となった学生数は延べ128名であった。その他、必要に応じて、特別支援学校、病院においても単位認定試験を実施しており、2010年度第１学期は8名（延べ21名）の学生が受験した。

学生の研究成果の公開

放送大学（学部）では、学生が指導教員から直接、指導を受ける機会を提供するため、卒業研究を開設しており、毎年多くの学生が履修している。そこで2007年度より、卒業研究の履修を将来希望する学生への情報提供として、卒業研究のテーマ一覧と、研究成果である卒業研究報告書の公開を、キャンパス・ネットワーク・ホームページで開始した。2010年度は、2009年度の「卒業研究報告書テーマ一覧」と「卒業研究報告書（全文）」31点を公開した。

大学院については、修士論文を基にした学生論文集「Open Forum（放送大学大学院教育研究成果報告）」を2005年3月より刊行している。在学生や今後の入学者への情報提供のほか、大学から社会に向けた情報発信、教員の自己点検・自己評価、修士課程の教育研究内容が具体的に見える資料として利用されることを目的としている。2010年3月刊行の第6号には2008年度修了生全423名の研究成果の中から、論文11点、研究ノート37点を掲載している。

Open Forum　6号

特色ある講義を多くの人に　オープンコースウェア

オープンコースウェア（OCW）とは「大学で正規に提供された講義とその関連情報のインターネット上での無償公開活動」のことである。米国マサチューセッツ工科大学（MIT）で大学が担うべき知識普及モデルとして提唱され、その取り組みは世界各国に広がっている。日本では、2004年にMIT OCWワークショップが開催されたことをきっかけに、2006年に日本オープンコースウェアコンソーシアム（JOCW）が設立され、OCWに準拠した講義公開の取り組みが始まった。

JOCWの基本的な狙いは、「知の集積拠点」である大学が、その蓄積された知を、「講義」の公開を通じて社会に伝達することである。生涯学習の中核機関である放送大学はJOCWの理念に賛同し、2009年より正会員として参加し、2010年10月からは、特色ある授業科目をインターネット上で公開している。現在、その数は、テレビ4科目、ラジオ13科目である（表6）。

■ 表6　2010年度オープンコースウェア科目一覧

科目名	講師	メディア
入門線型代数（'09）	隈部 正博	TV
空間とベクトル（'09）	松本 幸夫／川﨑 徹郎	TV
コンピュータのしくみ（'08）	岡部 洋一	TV
解析入門（'08）	熊原 啓作／河添 健	TV
人格心理学（'09）	大山 泰宏	R
日本文学の読み方（'09）	島内 裕子	R
環境と社会（'09）	鈴木 基之／植田 和弘	R
統計学（'09）	藤井 良宜	R
教育心理学概論（'09）	太田 信夫	R
公衆衛生（'09）	多田羅 浩三／瀧澤 利行	R
北東アジアの歴史と朝鮮半島（'09）	吉田 光男	R
心理・教育統計法特論（'09）	福田 周／卯月 研次	R
特別講義：ジャーナリストの父、タレントの息子 ～明治日本に貢献したブラック親子～	柏倉 康夫	R
特別講義：世界の名著を読む 国富論から学ぶ	竹本　洋	R
特別講義：人と動物のかかわり 1. 身近な動物	石橋 正彦	R
特別講義：人と動物のかかわり 2. ネズミの話	石橋 正彦	R
特別講義：地球上最大の動物、クジラ	大隅 清治	R

あの名講義を再び

放送大学叢書

放送大学の印刷教材は、科目開設にあわせて書き下ろしたオリジナルであり、科目閉講とともに絶版になってしまうことに惜しむ声が少なくなかった。そこで2009年より、既に閉講になった科目の中から特に人気の高かった科目について、その印刷教材に著者自らが手を加え、『放送大学叢書』として世に送り出している。2010年12月現在、全13冊が発刊されており（表7）、いずれも好評を博している。

10月には、刊行10点突破を記念して、柏倉康夫氏、香山壽夫氏、本学島内裕子教授の3名の著者によるトークイベントが行われた。放送大学叢書立ち上げの際のプロジェクトチームのリーダーでもあった柏倉康夫氏から、叢書立ち上げに至った経緯や叢書の魅力などが紹介され、参加者とも活発な議論が交わされた。

放送大学叢書刊行10点突破記念
トークイベントの様子

■ 表7 2010年に出版された放送大学叢書一覧

書　名	著　者	
人間らしく生きる　～現代の貧困とセーフティネット～	法政大学現代福祉学部教授、北海道大学名誉教授	杉村　宏
建築を愛する人の十二章	建築家、東京大学名誉教授	香山　壽夫
〈中国思想〉再発見	中国思想史研究者、東京大学名誉教授	溝口　雄三
教育の方法	東京大学大学院教育学研究科教授	佐藤　学
〈科学の発想〉をたずねて　～自然哲学から現代科学まで～	東京大学大学院総合文化研究科教授	橋本　毅彦
初歩から学ぶ金融の仕組み	学習院大学経済学部教授	岩田 規久男

学びの証

科目群履修認証制度（放送大学エキスパート）

放送大学では、2006年度から本学独自の制度として、科目群履修認証制度（放送大学エキスパート）を導入した。これは本学が指定する特定の授業科目群を履修することにより、ある分野に目的・関心を持ち、そのための学習を体系的に行ったことを証明するものである。その後、2007年に学校教育法が改正され、新たに大学等に「履修証明制度」が規定されることを機に、2008年度からは、この「履修証明制度」に対応するものとして再スタートしている。

当初10プランで始まった本制度だが、その後、毎年新しいプランを創設し、2010年度は23プランになっている。認証状取得者数は、2006年度223人、2007年度1,092人、2008年度2,848人、2009年度2,552人と毎年着実に増加しており、2010年度も前年度と同程度の取得者が見込まれている。2010年12月31日までの累積取得者数は8,144名にのぼっており（表8）、学生の修学目標の一つとして定着していることがわかる。

■ 表8　2010年12月31日現在の認証状取得者数

認証プラン名	認証状の名称	認証状修得者数
1. 健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者	1,269
2. 福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ	878
3. 社会生活企画プラン	社会企画士	502
4. 食と健康アドバイザープラン	食と健康アドバイザー	213
5. 心理学基礎プラン	心理学基礎	1,231
6. 社会探究プラン	現代社会の探究	210
7. 市民活動支援プラン	市民政策論	261
8. 実践経営学プラン	経営の理解	236
9. ものづくりMOTプラン	ものづくりとMOT（技術経営）を学ぶ	77
10. 次世代育成支援プラン	次世代育成支援	620
11. コミュニティ学習支援プラン	地域生涯学習支援	83
12. 異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援	272
13. アジア研究プラン	アジア研究	113
14. 日本の文化・社会探究プラン	日本の文化と社会	154
15. 宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学	149
16. 生命科学プラン	生命人間科学	374
17. 環境科学プラン	環境科学の基礎	233
18. 社会数学プラン	数学と社会	94
19. エネルギー・環境研究プラン	エネルギー環境政策論	91
20. 芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援	408
21. 歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援	553
22. 自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援	86
23. 工学基礎プラン	工学基礎	37
合　計		8,144

キャリアアップを支援する

資格取得

放送大学で修得した単位は、以下の資格取得のために活用することができる。

看護師国家試験受験資格、教員免許状の上位・他教科・隣接校種の免許状、学校図書館司書教諭資格、特別支援学校教諭二種免許状（知的障害者教育領域・肢体不自由者教育領域）、養護教諭免許状、栄養教諭免許状、図書館司書資格、学芸員資格、社会教育主事資格、介護教員講習会の対応科目

2009年度からは、教員免許更新制の開始に伴い、教員免許更新講習を実施している。本学の特性を生かし、全国どこからでも講習が受けられるよう、テレビ、ラジオ、インターネットを利用した講習を開講している。2010年度も夏期と冬期の2度にわたって開講し、2010年度の講習では、延べ9,173名が受講した。

拡大するインターネットを利用した学生サービス

放送大学の学生には、現在、インターネットを利用した3つの学生サービスを提供している。

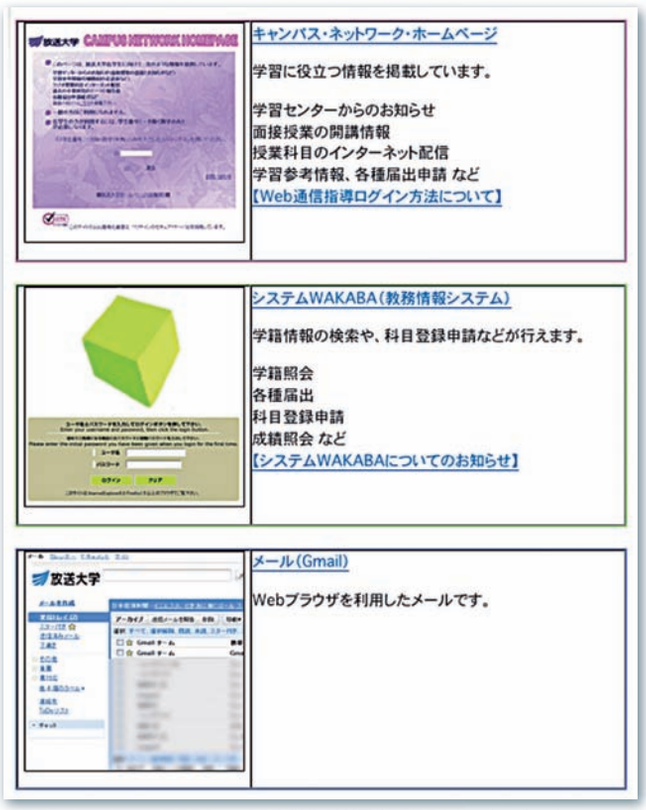
「キャンパス・ネットワーク・ホームページ」は、大学や学習センターからのお知らせ、面接授業の開講情報のほか、授業科目のインターネット配信など、学習に役立つ情報を提供している。また2010年度からは、インターネット上で通信指導問題の解答、提出、解説の閲覧ができるWeb通信指導を、このサイトを通じて始めた。

「システムWAKABA」は、2009年度より稼働を開始した事務手続きをインターネット上で行えるシステムで、これにより学生は、成績照会、科目登録申請、各種届出等が行える。また学生各自の学生カルテを作成する機能により、学生は自分が登録した科目情報や自分の卒業に必要な単位をいつでも知ることができる。

2010年度は、これらに加え、GoogleAppsによるメールサービス（Gmail）を導入し、在学生全員にメールアカウントを配付した。また統合ID管理システムの導入により、シングルサインオンが可能になり、1度のログイン操作で、上記3つのシステムを利用できるようになった。

このほかにも、大学院では、以前より利用されてきた研究指導支援システムに加え、Web会議システムが2010年度より新システムに代わり、これまでよりさらに容易に、自宅にいながらにしてゼミ参加などができるようになっている。

また、図書館のオンラインサービスも拡充され、図書の貸し出し状況の確認や延長、貸し出し中の図書の予約、本部図書の取り寄せ申込みなどの従来のサービスに加えて、文献複写の取り寄せや、学外図書の貸借申込なども、自宅からできるようになった。



在学生が利用する3つのインターネットシステム

地域に根ざした教育等

大学コンソーシアムを通じて地域に根ざす

本学は全国各地に学習センターを設置している。この特色を活かし、地域の大学と「大学コンソーシアム」協定を結び、学生がより多様な授業科目を自由に履修できる体制作りを推進している。

2010年に加入したコンソーシアムは右記のとおりである。

2010年に加入したコンソーシアム

コンソーシアム名	参加校の種類	参加大学等数
ネットワーク大学コンソーシアム岐阜	大学・短大等	22
岡山県生涯学習大学に対する連携協力	大学・短大等	109
教育ネットワーク中国	大学・短大等	31
大学ネットワークふくおか	大学等	23
ながさき県民大学	大学・短大等	240

他機関への教育支援

単位互換の取り組み

本学は、全国の教育機関と積極的に単位互換協定を進めており、2010年度も新たに25大学・短大、2大学院、1高専と単位互換協定を締結し、合計354校となった。

2010年度に締結した単位互換協定締結校

大学・大学院名	大学・大学院名
聖学院大学	岐阜女子大学大学院
東京農工大学	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜16校
電気通信大学	広島文化学園大学大学院
洗足学園音楽大学	愛媛県立医療技術大学
新潟県立大学	長崎県立大学
北陸学院大学	志學館大学
	鹿児島女子短期大学

大学との包括的連携協力の取り組み

本学は、他大学との間で教育研究の質の向上推進や、多様で効果的な教育手段・方法等の活用など、教育研究に関する連携協力を進めている。2010年度には、右記の2校と包括的連携協定を締結した。

2010年度に締結した包括的連携協定校

校　名
国立大学法人　山口大学
国立大学法人　熊本大学

専修学校との連携協力

本学には、専修学校専門課程と連携協力を実施し、専修学校専門課程に在籍しながら学士（教養）の学位を取得できる大学併修制度を設けている。

2010年度も新たに右記の3校と連携協力の覚書を締結した。

2010年度に締結した連携協力校

校　名
秋田経理情報専門学校
日本工学院専門学校
日本工学院八王子専門学校

高大連携の取り組み

本学では高等学校と連携し、高校生が放送授業で学習する高大連携を推進している。2010年度は学校法人 日本放送協会学園との間で高大連携事業を中心とした包括的連携協力協定を締結した。

2010年度に締結した包括的連携協定校

校　名
学校法人 日本放送協会学園

放送大学における研究 情報工学から若者論まで

特別研究と外部資金による研究

放送大学では毎年創造的な学術研究が継続されており、情報工学、文化人類学、昆虫学、現代日本の社会問題など多岐にわたる分野が研究されている。放送大学の専任教員が従事している研究には、大きく分けて二つある。学内の特別研究費（学長裁量経費）を使っておこなわれるものと、放送大学教育振興会助成や日本学術振興会など、学外の団体からの助成資金によって進められるものである。

以下に示すのは、2010年度に特別研究費および放送大学教育振興会助成・日本学術振興会の助成によっておこなわれた研究テーマである。

■ 2010年度学長裁量経費Ⅰ（グループ研究・プロジェクト支援）決定者一覧

所　属	職　名	氏　名	研究課題名
生活と福祉	教　授	井上　洋士	当事者参加型面接授業の試行及びその効果の検討 ―「病い経験の語り」導入を例に―
	教　授	大曽根　寛	生涯学習ノート試案の作成に関する研究 ―放送大学における個別学習計画のために―
社会と産業	教　授	坂井　素思	教養型生涯学習における「知識循環研究」プロジェクト
	教　授	河合　明宣	放送大学における教室外（野外）面接授業の実施状況と 授業評価のための基礎データの収集
	教　授	仙田　満	幼児の成育環境が運動能力に与える影響に関する研究
自然と環境	教　授	熊原　啓作	放送授業「身近な統計（'12）」の授業支援教材サイト構築のための デジタル教材の作成とe-learning化に向けた研究
	教　授	米谷　民明	物理を楽しみながら理解させるためのプロジェクト
附属図書館	館　長	松村　祥子	貴重コレクションの電子公開と冊子（和文・英文）の刊行
	館　長	松村　祥子	教材作成と広報活動に資する図書コレクションの整備
ICT活用・遠隔教育センター （大学支援部門）	准教授	川淵　明美	魅力が伝わる授業番組作りに役立つ新たな活動の提案
	准教授	芝崎　順司	放送大学におけるモバイル教材の開発と配信
ICT活用・遠隔教育センター （大学支援部門）	教　授	苑　復傑	中国の広播電視大学の統治システム構造と学習センターの機能に関する研究
	教　授	中川　一史	放送大学学生の自律学習支援に役立つ学習スキルアップ教材の開発 ―学習の継続、意欲の向上を応援します―
	教　授	広瀬　洋子	放送大学に学ぶ多様な学生（障害者・高齢者・留学生・海外の学習者）の ための学習支援システムの開発とコンテンツ作成
	特定特任教授	平野 秋一郎	看護師国家試験対応の学習支援ツール開発
ICT活用・遠隔教育センター （国際連携部門）	教　授	児玉　晴男	印刷教材制作の改善による放送大学教材の標準化とアーカイブ化のための 教材制作手法の研究
	教　授	三輪 眞木子	システムWAKABAとキャンパスネットワークのユーザ・インターフェイス調査（2）

■ 2010年度学長裁量経費Ⅱ（個人特定研究助成）決定者一覧

所　属	職　名	氏　名	研究課題名
生活と福祉	教　授	井上　洋士	オーストラリアにおける経時的・縦断的QOL調査プロジェクトの現状と課題 及び日本でのフィージビリティについての研究
	教　授	松村　祥子	フランスの新保育システム（jardin d'éveil）に関する調査研究
	教　授	宮本 みち子	社会的支援を要する若者の実態と支援方策に関する研究
	教　授	奈良 由美子	生活リスクの実際と管理課題に関する研究
自然と環境	教　授	濱田　嘉昭	光学活性分子の分光学的研究　―医療・健康への基礎的研究―
ICT活用・遠隔教育センター （ICT活用・遠隔教育推進部門）	教　授	黒須　正明	e-learning導入に向けた学習者のモチベーションとコンピタンスの実態に関する調査研究
	准教授	高橋　秀明	時間圧力下における人間のプロセス制御行動
ICT活用・遠隔教育センター （ICT活用・遠隔教育推進部門）	准教授	近藤　智嗣	米国スミソニアン自然史博物館におけるミクストリアリティ実験
ICT活用・遠隔教育センター （国際連携部門）	教　授	青木 久美子	デジタルテレビ放送におけるデータ放送、 及び双方向性機能の教育活用に関する研究

■ 放送大学教育振興会助成による研究：放送による大学教育用教材の研究開発

所　属	職　名	氏　名	研究課題名
ICT活用・遠隔教育センター（ICT活用・遠隔教育推進部門）	教　授	黒須　正明	学習手段の選択と利用に関する人工物発達学的分析
	准教授	高橋　秀明	遠隔教育学習過程の記述：放送大学教員・学生を対象に

■ 放送大学教育振興会助成による研究：放送による大学教育用教材の海外に対する普及協力及び国際交流

所　属	職　名	氏　名	研究課題名
	学長	石　弘光	国際交流の推進
ICT活用・遠隔教育センター（国際連携部門）	教授	山田　恒夫	国際セミナーの開催
	教授	青木 久美子	国際シンポジウムの開催
鹿児島学習センター	所長	竹田　靖史	シアトルで、いきいきと（面接授業「English in シアトル」の開講）

■ 放送大学教育振興会助成による研究：機関特別推進研究等に係る助成

所　属	職　名	氏　名	研究課題名
	副学長	本間　博文	高大連携を含む単位互換・連携協力の推進及び資格取得教育の支援充実

■ 文部科学省又は日本学術振興会の科学研究費補助金による研究（氏名は代表者）

所　属	職　名	氏　名	研究種目	研究課題名
人間と文化	教　授	本多　俊和	基盤A	先住民をめぐる異化と同化の力学に関する人類学的研究
ICT活用・遠隔教育センター（大学支援部門）	教　授	加藤　浩	基盤A	生涯学習ポータルサイトにおける学習コミュニティ形成支援機能の研究
ICT活用・遠隔教育センター（国際連携部門）	教　授	山田　恒夫	基盤A	学習コンテンツの世界的共有再利用を促進する情報システムと学習コミュニティの形成
生活と福祉	教　授	奈良 由美子	基盤B	生活の安全・安心の実現とリスク管理・リスクコミュニケーションについての比較文化研究
	教　授	宮本 みち子	基盤B	労働市場から排除された若者を支援する政策手法とその評価に関する国際比較研究
	教　授	大曽根　寛	基盤B	フランスと日本の新しい障害者政策に関する比較研究
人間と文化	教　授	草光　俊雄	基盤B	ロマン主義時代の旅行記とその歴史的背景 ―国家意識・国民意識の変容を中心にして―
	教　授	吉田　光男	基盤B	戦前期日本人研究者による朝鮮知の構築
自然と環境	教　授	米谷　民明	基盤B	ゲージ重力対応と非摂動的超弦理論の構築
ICT活用・遠隔教育センター（大学支援部門）	教　授	仁科　エミ	基盤B	脳機能イメージングと多元的生理指標による超高密度4K映像視聴効果の評価
ICT活用・遠隔教育センター（ICT活用・遠隔教育推進部門）	准教授	浅井 紀久夫	基盤B	技能伝承のための触力覚協調インタラクションによる分散訓練環境の構築
	准教授	近藤　智嗣	基盤B	博物館における複合現実感共用システムの構築と科学的思考の育成に関する縦断的研究
ICT活用・遠隔教育センター（国際連携部門）	教　授	青木 久美子	基盤B	構成主義に基づいた授業設計のための学習デザイン共有化ツールの研究開発
	教　授	三輪 眞木子	基盤B	情報専門職教育における学位・資格の国際的な同等性と互換性に関する研究
東京足立学習センター	特任教授	冨永　典子	基盤B	ミャンマーカチン州未調査地域における貧困対策・健康増進のための有用資源の学術調査
広島学習センター	特任教授	二宮　皓	基盤B	国際学力競争におけるグローバル・ガバナンスの実相の比較研究 ―PISAを事例として―
	副学長	荻野　博	基盤C	教員免許更新制における免許状更新講習用化学実験教材の開発
心理と教育	教　授	小川　正人	基盤C	政治･行財政改革下の教育政策決定構造と自治体教育行財政の変容に関する実証的研究
人間と文化	教　授	川合　慧	基盤C	情報の基礎概念および処理過程の教材向け可視化の研究
	教　授	宮下　志朗	基盤C	「文芸の共和国」としてのプランタン＝モレトゥス出版工房の総合的研究―　第二期
自然と環境	准教授	二河　成男	基盤C	昆虫が水平転移により共生細菌から獲得した遺伝子群の進化と機能
ICT活用・遠隔教育センター（大学支援部門）	准教授	芝崎　順司	基盤C	携帯電話によるコンテンツ発信・評価情報交流型ユビキタス学習環境の構築に関する研究
ICT活用・遠隔教育センター（ICT活用・遠隔教育推進部門）	教　授	近藤 喜美夫	基盤C	国際教育交流における議論の質を向上させる遠隔コミュニケーション支援システムの開発
	教　授	中川　一史	基盤C	初等教育国語科における「みる」「みせる・つくる」領域育成向上教育プログラムの開発
	教　授	苑　復傑	基盤C	中国における高等教育の国際競争力強化体制 ―その構造と日本への含意―
	准教授	大西　仁	基盤C	触知覚・運動モデルに基づく触覚通信の品質向上
東京世田谷学習センター	特任教授	秋鹿　研一	基盤C	自然エネルギー貯蔵を目指す新しいアンモニア吸蔵剤の研究
ICT活用・遠隔教育センター（大学支援部門）	教　授	仁科　エミ	挑戦萌芽	可聴域に限定されたデジタル録音周波数帯域伸張の生理的影響評価と教育応用
	教　授	加藤　浩	挑戦萌芽	社会構築主義的能力観に基づく新しい形成的教育評価手法の研究
心理と教育	准教授	森　津太子	若手B	裁判員の量刑判断におけるヒューリスティックス利用とその既定因
ICT活用・遠隔教育センター（大学支援部門）	准教授	葉田　善章	若手B	ユビキタス環境下での手書き入力を使った対面授業を支援する学習環境の構築
ICT活用・遠隔教育センター（ICT活用・遠隔教育推進部門）	助　教	杉山　秀則	若手B	複数コンソーシアムを横断した教材共有化システムの開発
ICT活用・遠隔教育センター（国際連携部門）	准教授	鈴木　一史	若手B	3次元物体モデルのテクスチャ情報を考慮した類似検索に関する研究

放送大学研究年報

『放送大学研究年報』は、放送大学の専任教員が日頃の研究に基づき様々なアイディアや研究結果を発表する場である。2009年度版を2010年3月に発行した。

■ 放送大学研究年報　第27号　2009年

著　者	論文タイトル
石丸　昌彦	統合失調症小史
住田　正樹・中村　真弓・山瀬　範子	幼児をもつ親の役割意識に関する研究
西川　泰夫	心理学論考ノート ―「ヒト」はいかに「人」になるか：知性の生成変換過程とその数理構造―
山口　義枝	心理面接者の身体感覚に関する臨床的意義
船津　　衛	創発的内省理論の展開
蘇　雲山・河合　明宣	トキ再導入プロジェクトの日中韓比較―生物多様性保全と農業環境政策の課題―
來生　　新	権力と企業―その関係の歴史的変遷から見る公共の利益（1）
青山　昌文	料理芸術本質論（その1）―ブリヤ＝サヴァラン美味学の美学的・哲学的考察―
吉岡　一男	HBSでの偏光観測によるおうし座RV型星の長周期変動について
山本　將人・熊原　啓作	固有値によるネットワークシステムの平衡特性解析
黒須　正明	学習者特性と利用状況に適合した学習手段の選択―人工物発達学の視点から―
青木　久美子	諸外国の遠隔教育大学における学習支援員（チューター）制度の比較
島内　裕子	脇蘭室と『徒然草』
杉浦　克己	『古語拾遺校本』をめぐって

『放送大学研究年報』2009

研究成果の発表・普及

放送大学の専任教員は、放送大学の学生のための印刷教材を執筆するのみならず、専門家および一般の読者の両方に向けて、研究成果を活発に発信している。以下の表からも分かる通り、2010年も放送大学の専任教員は多数の書籍・辞典・辞書などを出版した。これらの多くは、一般の書店で求めることが可能である。これらの研究成果を実際に手に取ってみることによって、放送大学専任教員の研究の専門性と学際性の両方を実感することができるであろう。

副学長	荻野　　博	無機化学命名法―IUPAC2005年勧告―（訳著）	東京化学同人
		マクマリー 一般化学（上）（訳著）	東京化学同人
		岩波講座　現代化学への入門　全18巻（編集委員）	岩波書店
生活と福祉	松村　祥子	暮らしをつくりかえる生活経営力（共著）	朝倉書店
	石丸　昌彦	統合失調症とそのケア	キリスト出版社
心理と教育	住田　正樹	子どもと地域社会（編著）	学文社
		子どもと家族（編著）	学文社
	小川　正人	教育改革のゆくえ―国から地方へ（単著）	ちくま新書
		教育六法―2010年度版	三省堂
社会と産業	仙田　　満	保育用語辞典 第6版	ミネルヴァ書房
	高橋　和夫	なるほどそうだったのか!!パレスチナとイスラエル	幻冬舎
人間と文化	島内　裕子	校訂・訳・徒然草（単著）	筑摩書房（ちくま学芸文庫）
		蝶を追ふ――野田宇太郎生誕百年（共著）	野田宇太郎文学資料館（ブックレット8）
	宮下　志朗	モンテーニュ『エセー 4』（翻訳と解説）	白水社
		『ベルギー王立図書館所蔵　ブリューゲル版画の世界』カタログ（翻訳・執筆）	Bunkamuraザ・ミュージアム
		「しなやかな紙の本で、スローな読書を」、池澤夏樹編『本は、これから』（分担執筆）	岩波書店（岩波新書）
自然と環境	松本　忠夫	生物学辞典（共編著）	東京化学同人
ICT活用・遠隔教育推進部門	黒須　正明	Human Computer Interaction（分担執筆）	InTech
		Human Work Interaction Design: Usability in Social Cultural Contexts（分担執筆）	Springer Verlag
		人工物発達研究 Vol. 3（編著）	総合研究大学院大学
静岡学習センター	本多　隆成	定本徳川家康（単著）	吉川弘文館
愛知学習センター	若尾　祐司	歴史の場――史跡・記念碑・記憶――（若尾祐司・和田光弘編著）	ミネルヴァ書房
滋賀学習センター	佐藤　尚武	からだと温度の事典（分担執筆）	朝倉書店

コラム 研究の最前線

現実と虚構の狭間、あるいは恐竜はいかにして現代に蘇ったか

近藤智嗣准教授「ミクスト・リアリティ」

太古の昔に滅んでしまった恐竜を私たちの眼前にもたらすのは、古生物学だけではない。3DCGを始めとするさまざまな技術の利用も、過去や科学に対する私たちの理解を劇的に向上させる可能性に満ちている。3D機能のある電子機器が巷に溢れている昨今、近藤智嗣准教授の「ミクスト・リアリティ」に関する一連の研究を紹介するのは非常に時宜にかなったことであろう。

＊＊＊

しかしまず、「ミクスト・リアリティ」とはなんだろうか？近藤准教授によれば、この「複合現実感」と通常訳される用語は、現実に存在する事物を基に、3DCGなどにより構築された物体を合成することのようだ。これだと何のことだか分からないが、分かりやすい事例を挙げると、例えば博物館などで恐竜の立体感のある映像を見せることで、来館者に恐竜の生態についてより深く体感してもらおうとするサービスなどを思い浮かべていただくといいと思う。このようなプロジェクトは、教育学者や古生物学者など多くの分野からの研究者を巻き込んだ共同研究となっており、各分野の最新の知見が広く応用される、極めて学際的な様相を呈している。

＊＊＊

近藤准教授は長年、「ミクスト・リアリティ」の研究を様々なメディアや教育現場などに適用しようと尽力してこられた。上述の恐竜を立体的に体感できるプロジェクトの他にも、フランスのとある修道院の内部を3DCGにより構築し、現地に行けない人も修道院内部を疑似体験できるものや、印刷教材に示された脳の図などが立体的に見えるようにしたものなどがある。

＊＊＊

筆者も近藤准教授の作成した恐竜の3DCGを体験させてもらったが、恐竜が目の前でのしのしと歩き回っているようで、思わず後ずさりしそうになった。しかし、目にあてがっている装置を外せばそこにあるのはいつもと変わらない現実空間であり、そのことが安心感をもたらしてくれる。常に現実と虚構の往復運動によって複合現実感が私たちの知覚に襲いかかるのが実感できる。ミクスト・リアリティは、現実によって区切られた仮想空間をコンパクトに提示してくれるのだ。近藤准教授によれば、ミクスト・リアリティ研究により「今まで他のメディアではできなかった表現が可能になってきた」という。猛々しい恐竜の咆哮を聞いたり、宇宙への旅を体験したりすることを可能にすることによって、ミクスト・リアリティは我々の認知や理解のメカニズムを大きく変革させる力を持っていると言えよう。

ミクストリアリティ

世界に羽ばたく放送大学

2010年は、アジア公開大学連合の年次大会において本学が2012年年次大会の開催校に決定された年である。また、本学は第2回日中韓セミナーを主催するなど、国際交流に積極的に取り組んだ年でもある。

第24回アジア公開大学連合(AAOU)年次大会への参加

2012年 年次大会は本学主催に決定

2010年10月26日から28日の3日間、AAOU（Asian Association of Open Universities）の第24回年次大会がベトナムのハノイで開催された。主催大学は、Hanoi Open University（HOU）であり、メリア・ハノイ・ホテルが会場となった。23カ国から208名、ベトナム国内から250名、合わせて458名の参加者があり、たいへん盛況な大会となった。AAOUは、1987年に設立され、現在、アジア諸国、中東圏の大学・機関を中心に64会員を擁している。

24回年次大会のテーマは、「持続可能なグローバル学習社会を築くための公開・遠隔教育活動（Open Distance Learning Towards Building Sustainable Global Learning Communities）」であった。これまでアジアの公開大学で行なわれてきた公開・遠隔教育活動の発展を振り返り、活動協力のあり方への反省を踏まえて、今後の動向を見つめようとするものである。本学からは、石弘光学長、岡部洋一副学長、坂井素思教授、奈良由美子教授、山田恒夫教授ら6名が参加し、それぞれ基調報告、parallel discussionでの司会、報告等を行なった。

また今回の大会では、本学に関係する2つの重要な案件が決定された。第1に、2012年の主催大学に本学が選出されたことである。第2に、2011～2013年の役員会メンバーに本学が選出されたことである。11の公開大学が役員候補にエントリーする中で、本学は香港公開大学に次ぐ第2位で当選した。役員に選出された機関は、役員会を構成し運営の中枢を担うことになる。

これらのことは、本学がアジアを代表する遠隔教育機関として国際的にも存在感が増していることを示すものであると言えよう。

第2回 日中韓セミナー

2010 年度は本学主催

日中韓セミナーは、2009年９月に第１回セミナーを韓国放送通信大学校（KNOU）の主催で始まった。本年は、本学を主催校として、2010年９月３日に第２回セミナーを本学図書館3階AVホールにて開催した。

今回のテーマは「公開大学における教育サービスの向上」であり、「学生支援」と「教員の教育能力開発」の2つのセッションが設けられた。海外からの参加者は、韓国５名、中国11名の計16名、本学からの参加者は教員19名、職員3名、学生4名の計26名であり、総計42名の参加者数となった。

本学の石弘光学長が開会挨拶、岡部洋一副学長が閉会挨拶を行なった。また、青木久美子教授が開会式総合司会とセッション2「教員能力開発」での報告（「放送大学におけるFD活動」）、青山昌文教授がセッション１「学生支援」での報告（「放送大学における学生支援の過去と現在―個人的視点から」）、大橋理枝准教授が総括討論での総合司会を、それぞれ行なった。総括討論では、石学長も交え、活発な議論がなされた。セミナー終了後、懇親会場に場所を移して、さらに親交を深めた。

国際シンポジウム2010

本学ICT活用・遠隔教育センター（CODE）は国際シンポジウム2010として、「学生中心主義教育の実践と課題」をテーマに、2010年２月18日に幕張メッセ国際会議場において開催した。石学長の挨拶に続き青木久美子教授の総合司会により進行し、情報コミュニケーション技術（ICT）の普及に伴い、「教師中心主義」の教育方法から、学生の自発性や個性を尊重する「学生中心主義（student-centered teaching and learning）」に基づく教育方法への転換が迫られる中で、米国、英国、豪州、韓国、日本の専門家を招いて講演を行い、それを踏まえて日本の高等教育における今後の実践について議論が展開された。

放送大学への外国人訪問団

2010年も、右記の通り、たくさんの外国からの訪問団が、遠隔教育に関する情報交換やIT人材育成のために本学を訪れた。

東欧諸国大学関係者視察団

JICAサウジアラビア訪問団

月日	訪問者
4月16日	東欧諸国大学関係者視察団（22名）
6月14日	ベトナム・ハノイ公開大学訪問団（3名）
7月2日	タイ・スコータイ・タマティラット公開大学訪問団（2名）
9月29日	JICAサウジアラビア訪問団（22名）
11月5日	JICAフィリピン大学訪問団（9名）
11月8日	JICAマレーシア青年研修訪問団（14名）
12月7日	中国電視大学関係者訪問団（10名）

社会への貢献

本学は、名実ともに日本における「開かれた大学」の第一人者として、その役割を担ってきた。
そのなかで、多岐にわたる社会貢献活動は、特筆に価する。ここでは、その中から、教員が行った活動の一部を紹介する。

日本学術会議

日本学術会議は1949年に内閣総理大臣の所管の下に設立され、科学に関する重要な事項を審議し、研究の連絡を図り、その能率を向上させるための活動を実施するものである。わが国の人文、社会科学、自然科学の全分野の研究者を代表する機関といえ、およそ210名の会員と2,000名の連携会員を有する。本学の教員も連携会員等に選ばれ、その活動に貢献をしている。右表は本学の会員加入状況を示すものである。

■ 日本学術会議での会員加入状況

氏　名	職　名	職　位	部
海部　宣男	教　授	会　員	第三部
仙田　満	教　授		
内堀　基光	教　授	連携会員	第一部
原　純輔	宮城学習センター所長（特任教授）		
本多　俊和	教　授		
宮本 みち子	教　授		
吉田　光男	教　授		
星　元紀	教　授		第二部
松本　忠夫	教　授		
荻野　博	副学長		第三部
桂井　誠	東京文京学習センター所長（特任教授）		
齋藤　清機	岡山学習センター所長（特任教授）		

学会・国・地方自治体等における活動

本学教員は学識者として、それぞれの専門性を活かし学会、国、地方自治体等での様々な組織で活動し、社会の発展に寄与している。以下にその一部を紹介する。

■ 学会、国、地方自治体等での活動

氏　名	職　名	役　職
荻野　博	副学長	IUPAC（International Union of Pure and Applied Chemistry）National Representative
松村　祥子	図書館長	日仏社会学会副会長
宮本 みち子	教　授	厚生労働省労働政策審議会委員、独立行政法人評価委員
大曽根　寛	教　授	日本社会保障法学会理事名古屋障害者施策推進協議会会長
住田　正樹	教　授	日本子ども社会学会会長
小川　正人	教　授	文部科学省　中央教育審議会委員
宮下　志朗	教　授	大学評価・学位授与機構学位審議会専門委員
加藤　浩	教　授	日本科学教育学会理事
青木 久美子	教　授	多文化関係学会理事
築和　正格	北海道学習センター所長	北海道都市地域学会副会長
柴田　洋雄	山形学習センター所長	山形県総合政策審議会委員長
宮崎　清	千葉学習センター所長	経済産業省伝統的工芸品産業審議会臨時委員
冨永　典子	東京足立学習センター所長	農林水産省　食料・農業・農村政策審議会果樹部会臨時委員
山田　伸志	山梨学習センター所長	中央環境審議会臨時委員
鈴木　敏男	福井学習センター所長	日本物理学会代議員
古田　善伯	岐阜学習センター所長	日本教育医学会会長

一般向け講演会

教育ならびに研究の成果を広く社会に公開することによって、社会と大学の垣根を取り去り、相互のさらなる発展が期待される。このことから、本学の教員は、その専門知識を、講演会等を通じて社会に還元している。以下にその活動の一部を紹介する。また今年は放送大学25周年を記念して、文部科学省との共催で本学の宮本みち子教授による「無縁社会〜崩壊する人間関係の絆の再生に向けて〜」と題する特別公開講演会を東京・霞が関の中央合同庁舎内講堂で開催した。

■ 一般向け講演会

氏　名	職　名	テーマ	共催等
石　弘光	学　長	少子高齢社会の現状と課題	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜共催
宮本みち子	教　授	無縁社会	文部科学省共催
石丸　昌彦	教　授	心の健康講座―精神疾患の現状と対策―	川口市民大学
臼井　永男	教　授	からだにいい靴、履いていますか?	足立区
小川　正人	教　授	義務教育費国庫負担制度を巡る今日的状況	全日本小学校長会連絡協議会
島内　裕子	教　授	読書人兼好と徒然草	調布市図書館
仙田　満	教　授	子どものあそび環境	目黒区
高橋　和夫	教　授	オバマと「イスラム」世界	平塚市民講座
宮本みち子	教　授	若者ホームレスの、今	NPO法人ビッグイシュー基金
松本　忠夫	教　授	飛べない鳥たちの悲劇―生物絶滅のある断面―	福井県立若狭図書学習センター
森　津太子	准教授	失言と言い訳から見る人の心ー重要な場面で失敗しないために―	八王子学園都市大学
宮崎　清	千葉学習センター所長	生き甲斐としてのものづくり	千葉県生涯大学校
佐藤　尚武	滋賀学習センター所長	健やかな体の育成について	大津市
宜保　精一	沖縄学習センター所長	傾斜地における施設設備と災害リスク	全日本建設技術協会

石学長講演

公開講座「無縁社会」

よりよい教育を目指して

自己評価書の作成と、大学機関別認証評価の受審

2004年より、国公私すべての大学等が、原則として7年以内ごとに、文部科学大臣の認証を受けた評価機関（＝認証評価機関）による評価を受けることとする「認証評価」制度が始まった。

本学もこの評価を受けるべく、2009年度に自己点検評価作業部会を自己点検評価委員会のもとに設置し、自己評価書の作成に着手した。完成した自己評価書を、2010年6月30日に認証評価機関である大学評価・学位授与機構に提出し、同年11月25日～26日の両日に渡って、担当委員による訪問調査を受けた。これに基づいて、2011年3月に評価結果が確定し、公表される予定である。

これを機に本学でも自己評価書を冊子にまとめるとともに、全文、全資料をホームページに掲載した。
http://www.ouj.ac.jp/hp/osirase/foundation/2010_6.html

■ 自己評価書の内容

Ⅰ　大学の現況及び特徴
Ⅱ　目的
Ⅲ　基準ごとの自己評価
　基準1　大学の目的
　基準2　教育研究組織（実施体制）
　基準3　教員及び教育支援者
　基準4　学生の受入
　基準5　教育内容及び方法
　基準6　教育の成果
　基準7　学生支援等
　基準8　施設・設備
　基準9　教育の質の向上及び改善のためのシステム
　基準10　財務
　基準11　管理運営
　基準12　正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況
Ⅳ　別添資料

授業評価結果の効果的な反映に向けて

本学では、教育内容や教授方法及び学習支援システム等の改善に資することを目的に、自己点検・評価の一環として、①学生による授業評価、②学習センター所長及び客員教員による授業評価、③専任教員による授業評価を行っている。その対象は、印刷教材、放送教材、通信指導問題及び単位認定試験問題等である。

評価者は、①実際に受講した学生、②学習センターで学生の学習支援にあたる学習センター所長及び客員教員、③科目の企画・作成に携わる専任教員であり、多面的な評価を行っている。

具体的な評価方法等は、自己点検・評価委員会で検討しているが、これまで科目開設1年後に実施していたものを、開設年度に実施することとし、その初年度となった本年度は2009年ならびに2010年の両年度に開設した授業科目について評価を行った。

評価結果は、各科目の主任講師、専任教員、学習センター所長、放送部・制作部等の科目制作担当者に提供し、必要に応じて授業内容の修正等の改善を行っている。

また、通信指導・単位認定試験問題の改善及び学生からの質問に対する回答などの学習支援の改善にも活用している。

なお、学生による授業評価の内容はWebで閲覧できる。
http://www.ouj.ac.jp/hp/osirase/jugyohyoka/index.html

主任講師会議を開講3年前に開催

よりよい教材作成のために、教材作成スケジュールの改善を実施している。現在取り組んでいる改善は、これまで開設前年度に放送教材及び印刷教材を同時に作成していたものを、印刷教材のみを切り離してさらにその１年前から作成を始めて、それぞれの教材作成に専念できるようにしようというものである。

このスケジュールに則って実施されるまでの移行期間である本年は、2012年度開設科目と2013年度開設科目について、それぞれ主任講師会議を開催した。主任講師とは、放送授業科目について、印刷教材の執筆、放送教材の制作、通信指導問題と単位認定試験問題の作成・採点、質問票への対応を行う責任教員のことである。

本学の講義は、放送授業と面接授業からなる。どちらも放送大学の専任教員に加えて、他大学等の諸機関に所属する教育・研究者にも、客員教員や非常勤講師として講義を担当していただいている。これらの客員教員や非常勤講師には、本学や学生の特性について、事前に書面や面談にて周知しているが、特に放送授業の主任講師にとっては、放送での講義や印刷教材の執筆、通信指導、単位認定試験の問題作成等、他大学では未経験の業務が多数ある。そのため、本学では、放送授業の制作に先立って、主任講師となる専任及び客員教員を一堂に集め、放送授業に関する諸事項について説明をしている。そこには、教材作成に携わる担当プロデューサー、ディレクターや印刷教材編集担当者も同席し、よりわかりやすい教材作成のための意見交換も行っている。

放送大学主任講師会議（2012年度開設科目）会議
2010年5月21日（金）

放送大学主任講師会議（2013年度開設科目）会議
2010年12月10日（金）

議事次第

【全体会】

1. 全体会開会
2. 学長あいさつ
3. 出席者紹介等
4. 教材作成等の留意事項について
5. システムWAKABAに関する業務説明
6. 質疑応答
7. 全体会閉会

【部会】

8. コース別・プログラム別部会開会
9. 業務概要説明
10. 意見交換
11. コース別・プログラム別部会閉会

【スタジオ体験】

12. スタジオ体験開始
13. テレビ収録、ラジオ収録の流れ等説明
14. スタジオ収録体験
15. スタジオ体験終了

主任講師会議

ＦＤ(Faculty Development)講演会の開催

Faculty Development（ＦＤ）の一環として、2010年3月16日に２名の講師による講演会を開催した。講師と講演テーマは下記に示すとおりである。

喜多敏博教授には、ｅラーニング推進機構について説明後、実践事例を提示しながら、ｅラーニングの有効性についてお話をいただいた。

川島啓二総括研究官には、学びと大学教員の役割の観点から学士課程教育改革の意味について、さらにＦＤの範囲とその義務化、概念の変化について説明があり、高等教育開発のためのツールが提示された。

講演の後、本学の教員との活発な論議が展開された。

このほかにFDセミナー及びFDランチョンセミナーを開催した。テーマ、講師等は下に示すとおりである。例えば2010年度から、本学学生にパソコンの操作方法を教授することを目的に、面接授業「初歩からのパソコン」を開講した。ランチョンセミナーとは、この授業をはじめて実施した担当講師が、授業実施後にその内容、印象、改善点などを報告しあうもので、参加者は各自ランチ持参で参加するものである。当該科目の今後のありかた等について活発な意見交換が行われ、今後もこのようなＦＤを継続して、教育の質の向上を目指していくこととしている。

以下に、開催したFD講演会、FDセミナー、FDランチョンセミナーのテーマ等を示した。

【FD講演会】

3月16日（火）15:00～17:00　参加者34名

① 喜 多 敏 博　教授（熊本大学大学院 教授システム学専攻、ｅラーニング推進機構）
講演テーマ：「熊本大学のｅラーニング展開―外向き・内向き―」

② 川 島 啓 二　総括研究官（国立教育政策研究所 高等教育研究部）
講演テーマ：「学士課程教育の改革とFDの進化」

【FDセミナー】

8月10日（火）14:00～16:00　参加者20名
講　　師：藤井彰人（グーグル エンタープライズ部門 プロダクト マーケティング マネージャー）
講演テーマ：「クラウドコンピューティングとGoogle Apps」

9月15日（水）10:00～17:00　参加者24名
講　　師：三輪眞木子、秋光淳生、高橋秀明、廣瀬洋子、仁科エミ、川淵明美、柳沼良知
講演テーマ：面接授業「初歩からのパソコン」授業方法

9月21日（火）13:30～16:30　参加者14名
講　　師：鈴木克明（熊本大学大学院　教授）
講演テーマ：効果的な授業・教材作りのための インストラクショナルセミナー

10月27日（水）13:00～16:00　参加者26名
講　　師：好本恵（フリーアナウンサー）
講演テーマ：効果的な放送授業のための話し方講習

【FDランチョンセミナー】

11月2日（火）11:30～13:00　参加者15名
報告者：三輪眞木子、苑復傑、秋光淳生、高橋秀明、廣瀬洋子、川淵明美
テーマ：面接授業「初歩からのパソコン」実践報告

12月14日（火）11:30～13:00　参加者16名
報告者：青木久美子、苑復傑、近藤喜美夫、仁科エミ、辻靖彦、葉田善章
テーマ：面接授業「初歩からのパソコン」実践報告

FD講演会

FDセミナー

eラーニングで学びを豊かに　ICT活用・遠隔教育センター

「UPO-NET for 放送大学」をスタート

UPO-NETは、インターネットで大学などにeラーニング教材を配信する事業「オンライン学習大学ネットワーク」の愛称である。2010年4月より、全国の大学に向けて教材配信サービスを開始した。基礎教育、初年次教育、入学前教育、キャリア教育など32のeラーニング教材を作成、配信している。教材は、数学や物理、化学、生物では中学、高校で学ぶ内容を、英語では中学、高校からTOEICを目指す内容までを扱っている。また、日本語や社会常識を確認する教材、就職のために必要な知識やスキルを学ぶ教材、ICT関連の技術を学ぶ教材などを揃えている。一部はiPad, iPhoneで学習できる。

2010年7月には、放送大学の学生への学習支援、および学生サービスの一環としてこれら教材の提供を開始した。本年度は6,800名の学生が登録、利用している。
http://upo-net.ouj.ac.jp/

iPadによる学習画面

オンラインジャーナルの公開

ICT活用・遠隔教育センターでは、Webによる研究成果報告書の公開を積極的に行っている。2010年は、下記のオンラインジャーナルおよび研究調査報告書を作成・公開した。

オンラインジャーナル　http://www.code.ouj.ac.jp/
- メディア教育研究　第6巻第1号
  特集「生涯学習におけるICT活用の現在と将来」
- メディア教育研究　第6巻第2号
  特集「生涯学習を視野に入れた情報教育」
- メディア教育研究　第7巻第1号
  特集「知識基盤社会における学習を支える技術と仕組み」

研究成果報告書
- 「ICT活用のためのFDガイドブック」
- 「ホライズンレポート2010日本語版」
- 「国際シンポジウム2010報告書」
- 「エビデンスに基づくオンライン学習実践法の評価」
  オンライン学習研究のメタ分析およびレビュー
  米国教育省　監訳　角倉雅博
- 「ICT活用教育の推進に関する調査」文科省委託事業
  先導的大学改革推進委託事業2009年度報告書

メディア教育研究

ICT活用のためのFDガイドブック

「授業改善ヒント集」を公開

「大学教員のための授業改善ヒント集」は、大学教員を対象とした授業改善のヒントを掲載しているWebサイトである。テーマごとに分けられた1本が3分程度のビデオ集と、1つの質問で約1ページのQ＆A集から構成されている。独立性が高いトピックスを幅広く取り扱っており、必要な部分のみを閲覧できるようになっている。Q&Aをまとめた冊子を含め、利用者からは大学FDの参考にしたいなど好評を得ている。
http://t-tips.code.ouj.ac.jp/

大学教員のための授業改善ヒント集・ビデオ集より

ビデオ集のテーマ
- ICTを活用するFDの概要
- 授業で配慮する著作権
- 授業前後のICTの効果的活用
- 提示としてのICTの効果的活用
- 学生のICT活用支援
- ICT活用以外の授業の工夫
- 上手な授業の進め方
- 学生と教員とのコミュニケーション
- eラーニング

Q＆A集のテーマ
- FDの概要・組織・活動形態
- 授業の設計・計画・評価
- 授業の工夫
- 学生とのコミュニケーション
- ICTを活用した授業の工夫
- オンラインコミュニケーションの活用法
- 留学生支援
- 障害のある学生への支援

ICT活用教育推進人材育成支援セミナーを実施

ICTを活用して、大学教育の質の向上を図ることができるよう、大学の教職員を対象に、学習効果の高いコンテンツを作成する方法、コンテンツ作成の際に必要となる著作権に関する知識など、ICT活用に必要な技術や知識を習得するためのセミナーを各地で実施した。また、各大学が個別に実施している各種人材育成セミナーについて、講師を派遣するなどの支援を行った。

- ICT活用教育セミナー
  - インストラクショナルデザイン（3件）
  - UPO-NET（2件）
  - 教育著作権（9件）
  - ICTセミナー（2件）
- 大学等の要請に基づくセミナー
  - 教育における著作権（16件）
  - FD（1件）

インストラクショナルデザインセミナー

UPO-NETセミナー

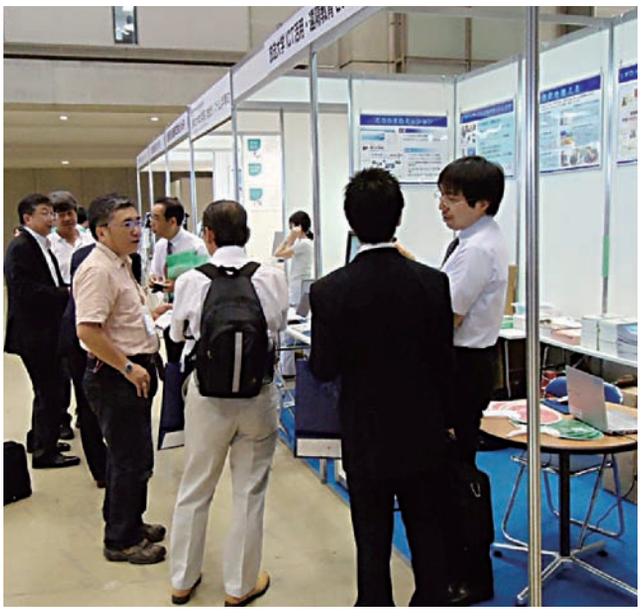
TV会議システムを用いた面接授業実験

複数の学習センターをTV会議システムで結んで試行的に面接授業実験を行った。講師ならびに学生からも好評であった。

「フロッタージュ&コラージュによる平面構成デザイン」宮崎清先生の授業風景

e-Learning WORLD 2.0への出展

2010年7月28日～30日、東京臨海副都心の東京ビックサイトで開かれた「e-Learning WORLD 2.0」に出展した。会場全体への来場者数は9,669名であった。放送大学のブースでは、大学のeラーニング、ICT活用の支援、eラーニング教材を提供する「UPO-NET」などの活動を紹介した。大学関係者からは、コンテンツ（教材）の提供、FDでの活用成功事例など情報の提供、教育著作権セミナーへの関心が高かった。



e- Learning WORLD 2.0

学習センターの動き、この1年

入学者の集い

4月と10月には各学習センターで「入学者の集い」が開催された。全国で年間合計55,392名の学部学生と大学院生が放送大学に入学し、大学生活を始めた。

和歌山学習センター

岐阜学習センター

学位記授与式

3月27日に東京・渋谷のNHKホールで2009年度の学位授与式を挙行した。当日は、学部卒業生と大学院修了生及びその同伴者合わせて2,000名を超える人が出席した。学歌演奏・石弘光学長式辞・鈴木寛文部科学副大臣ならびに久保田誠之総務省情報通信政策局大臣官房審議官からの祝辞に続き、学部卒業生代表原田美紗子さん（産業と技術専攻）と大学院修了生代表田中一典さん（総合文化プログラム環境システム科学群専攻）の答辞で閉会となった。その後、さらに放送大学のイメージソング「人間の贅沢、ひとつ」と「と・も・た・ち」などを作詞・作曲した小椋佳さんによる演奏などが行われた。2009年度3月の学部卒業生は2,916名で、大学院修了者は386名であった。

学位記授与式（ＮＨＫホール）

名誉学生への表彰

2010年4月に，放送大学の5コース（旧：6専攻）すべてを卒業した学生に対して，本学において多年にわたって修学を継続した意欲的な学習者を顕彰するとともに，本学学生の学習意欲の向上を図ることを目的として「名誉学生」という制度を設立した。

条件を満たした卒業生は，3月の学位記授与式にて学長表彰を行っている，制度を設立した今年度については，過去に遡って条件を満たしているすべての学生に、本学を卒業した後も、学習センターの各種施設を利用することが出来るなど各種特典を付与することとした。

2010年3月の学位記授与式には新たに名誉学生になった13名を表彰した。

学生表彰

学習センターの中には、とくに勉学に励んだ卒業生を対象に学生表彰をしているセンターがある。優秀な成績での卒業、複数専攻・コースの卒業や熱心に面接授業を受講したことなど、学習センターにより特色のある表彰をしている。

福井学習センターでの学生表彰

新任のセンター所長

2010年度は11の学習センターで新たに学習センター所長が就任して、学習センターのさらなる充実と発展のために活動を始めている。

■ 新任の学習センター所長一覧

北海道学習センター	筑和　正格 所長	和歌山学習センター	八丁　直行 所長
岩手学習センター	齋藤　徳美 所長	福岡学習センター	小寺山　亘 所長
福井学習センター	鈴木　敏男所長	熊本学習センター	﨑元　達郎 所長
岐阜学習センター	古田　善伯 所長	大分学習センター	五十嵐 副夫 所長
愛知学習センター	若尾　祐司 所長	沖縄学習センター	宜保　清一 所長
奈良学習センター	池原　健二 所長		

開設20周年記念式典

北海道、広島、福岡、熊本、沖縄の5ヶ所の学習センターでは、石学長出席のもと、学習センター開設20周年記念式典を開催した。それぞれ「迫りくる財政破綻の危機ー国の破産とは何かー」「超高齢社会をどう生きるか」「郵政改革のゆくえ」「少子高齢社会の現状と課題」「財政再建は可能かー国の借金を考えるー」と題する記念講演を行った。

福岡学習センター

熊本学習センター

沖縄学習センター

東京文京学習センターの移転

東京文京学習センターは東京都文京区の筑波大学東京キャンパス内に設置されていたが、建て替えのため、2010年3月に東京都北区浮間の仮校舎に移転した。

この仮校舎は廃校になった同地区の小学校の一部を借りたものであり、JR埼京線浮間舟渡駅の目の前という交通の便もよいところである。

なお新校舎は旧来の場所に現在建設中で、2011年10月に移転する予定である。

浮間仮校舎

学習センターの教育の充実

面接授業の充実

学生は放送授業とともに、学習の両輪の一つとして学習センターで面接授業を受講している。放送大学は面接授業のますますの充実に努めている。また、大学教員だけではなく、社会のいろいろな分野で活躍している人を講師にしたり、それぞれの地域に根ざしたユニークなテーマの面接授業も開講している。

さらに、鹿児島学習センターでは、10月17日から24日まで、竹田靖史所長と25名の学生が、シアトルのベルビューカレッジにおいて面接授業を実施した。

鹿児島学習センター　アメリカでの面接授業

和歌山学習センター「みかん学入門ー有田みかんに学ぶ」

山口学習センター「歴史の宝庫『周防国衙ー防府』」（公開授業）

学習・履修の支援

学生は、放送授業の授業内容については、質問票やインターネットを通して講義の担当講師に質問ができる。また、放送大学本部に設置した学生サポートセンターでも修学支援を行っているほか、学生は学習センターで学習・履修上の一般的な相談をすることができる。所長や客員教員に加え、経験豊富な先輩学生が相談に応じている。さらに、学習に役立てるために「私の生涯学習手帳」などを発行している学習センターもある。

島根学習センター「私の生涯学習手帳」

セミナーや勉強会

面接授業に加えて、学生は学習センターで自主的に開かれているセミナーや勉強会で学ぶこともできる。その形態は多様で、所長や客員教員だけではなく、学生が自分の経験を生かして講師になる場合もある。茶道・華道を学んだり、映画を鑑賞しながら心理学を学ぶようなものから、ある分野の専門的知識を深く学ぶものまである。

岐阜学習センター　セミナー「生物学」

高知学習センター　セミナー「金工四方山話」

秋田学習センター連携セミナー「秋田を知る」

集いの場としての学習センター

サークル・学生団体活動

学習センターでは、学問・趣味・スポーツ等共通の関心を持つ学生が集まってサークルや学生団体の活動が活発に行われている。とくに放送大学のようにさまざまな年齢や経験を持つ人たちが集まるサークルは、大学生活を一層豊かにしている。島津のお殿様の雑煮を試みる料理の学生団体「ひまわり」や琉球舞踏の稽古に励むサークルなど、地域性豊かなサークルや情報交換・親睦を目的としたサークルもある。さらには、地元自治体の「大学生によるまちづくり提案」に参加して1位に輝き、表彰を受けた「放送大学まちづくり研究会」（栃木学習センター所属）のような学生団体もある。

栃木学習センター　宇都宮市市長からの表彰

群馬学習センター　放送大学群馬混声合唱部

岐阜学習センター　English Salon

研修旅行

学習センターでは、学習や親睦を目的に、日帰りの研修旅行が年1回程度行われている。訪問先は、学術機関、博物館・美術館、工場、名所・旧跡などさまざまである。

大分学習センター　ビール工場見学と大刀洗平和記念館

文化祭

学習センターでは、文化祭も開催している。文化祭では、学生の日頃の学習の成果や趣味やサークル活動の成果が披露される。文化祭は学生同士、学生と学習センターの教職員さらには学習センターが地域の人々と交流する場ともなっている。

岐阜学習センター　作品展

和歌山学習センター　きのくに作品展

熊本学習センター　第1回文化祭

地域と密着する学習センター

■ 公開講演会・公開講座

学習センターでは、多数の公開講演会・公開講座を開催されており、地域の人びとにさまざまな知識を提供するとともに放送大学の存在をアピールしている。在学生にとっても放送授業や面接授業とは違った角度からの学習の場となっている。学長を始めとする放送大学の教員とともにそれぞれの地域で活躍している人も講師にお願いしている。

佐賀学習センター　公開講座2010「農・食　人材養成セミナー」

大分学習センター　公開講座「大分・市町村めぐり」

高知学習センター　公開講演会のポスター

■ 公開講演会の例

学習センター	演　題	講　師	
北海道学習センター	まちそだて「とかち」～ディバイズ（創意・工夫）が地域を創る	北海道学習センター所長	筑和　正格
青森学習センター	川の生態系を守るための魚道を知っていますか?	青森学習センター客員教授	泉　　完
岩手学習センター	『岩手の大地に抱かれて生きる』（三陸沿岸の宿命、津波から身を守る）	岩手学習センター所長	齋藤　徳美
茨城学習センター	インターネットの光と影 ーインターネットの付き合い方ー	茨城学習センター客員教授	町田　武美
新潟学習センター	地球環境を守る教育 ーマイクロスケール化学ー	放送大学副学長	荻野　　博
福井学習センター	日本経済の今後と農業の課題	放送大学教授	河合　明宣
奈良学習センター	奈良で感じる仏像の世界	国立奈良博物館学芸部長	西山　　厚
滋賀学習センター	新しい都市居住の形 ～マンション問題の今後を考える～	放送大学副学長	本間　博文
山口学習センター	異文化間コミュニケーション	放送大学准教授	大橋　理枝
鳥取学習センター	2000年鳥取県西部地震から10年	鳥取学習センター所長	西田　良平
愛媛学習センター	ドラッカー『非営利組織の経営』を読む	愛媛大学名誉教授	水口　和壽
熊本学習センター	法的責任と道徳的責任	熊本学習センター客員教授	吉田　　勇
沖縄学習センター	香辛料の食品機能	放送大学教授	中谷　廷二

オープンキャンパスなどの開催

多くの学習センターでは、オープンキャンパス（大学説明会）を開催している。これは、地域の人々に放送大学の存在をアピールするために、放送大学の概要を説明したり、放送授業や面接授業を体験してもらったり、学習センターの施設を案内したり、サークルを紹介したりしているものである。学生募集期間に開催することが多く、また、公開講演会と合わせて開催することも多い。また、個人別に放送大学を説明する個別相談会も多くの学習センターで開催している。さらに、放送大学本部の職員が放送大学大学院修士課程の入学から卒業までの手続きを説明したり、修士論文作成のアドバイスを行う大学院修士全科生入学希望者ガイダンスも開催している。

まなびピア高知2010に参加

毎年開かれている全国生涯学習フェスティバルに放送大学も毎年参加している。

22回目の2010年は、このフェスティバル「まなびピア高知2010」が、坂本龍馬ブームで沸いた高知県高知市の高知ぢばさんセンターを会場として、11月20日～21日に開催された。放送大学からは高知学習センターが参加し、石川充宏所長のミニセミナー、学生によるサークル紹介やちりめん本の展示を行った。

卒業生とのつながりの場所としての学習センター

同窓会活動等

学習センターでは2010年現在、46の同窓会が設立されており、会誌を発行したり、親睦旅行を企画したり講演会を開くなど、多彩な活動を行っている。また、例年、学位記授与式後の卒業・修了祝賀パーティーの企画・運営を行い、各学習センターの行事にも積極的に協力している。卒業生が再入学する率の高い放送大学では、学生と大学をつなぐ太いパイプとなっている。

宮崎学習センター　学友会設立総会

静岡学習センター　同窓会設立総会

未来に向かう放送大学の動き

充実する学習支援体制

2010年5月、本部に「学生サポートセンター」を設置し、全国の在学生の学びのサポートを開始した。修学継続のための支援のフォローコールを行い、更には相談機能の充実を図るなど、通信制大学にありがちな「学びの孤独」を「学びの意欲」に変えるために丁寧な修学相談、通信指導や単位認定試験の案内、科目登録の相談等、きめ細かな学習支援体制を整備するとともに、意見、苦情、問合せを受け付けて施設の整備、授業や事務手続きの改善に役立てている。

学生サポートセンター

放送大学第2回学生エッセイコンテスト

放送大学第２回学生エッセイコンテストの受賞作品が2010年2月25日に決定した。「学びと出会い」というテーマの募集に対し、52点の応募があり、選考委員会において厳正な審査を行なった結果、10点の優秀作品を選んだ。

応募者の年齢は、27歳から85歳と幅広く、所属する学習センターも全国30センターにわたっていた。応募作品はいずれも素晴らしい作品であった。

第３回学生エッセイコンテストの募集は2010年７月１日から10月15日にかけて実施され、84点の応募があった。11月から選考が始まり、2011年２月に最終結果発表の予定である。

■ 第2回　受賞者の一覧表

賞	受賞者	作品名	学習センター
最優秀	後藤　晃子	知識というオールを持つための学び	広　島
優　秀	井口　麗子	私の「学びと出会い」	静　岡（浜　松）
	杉山　恵一	交わりは距離にあらず	福　岡（北九州）
	本庄 久美子	学びと出会い	文　京
佳　作	黒澤　理絵	学ぶ生活、やっぱり楽しい	神奈川
	重本　俊明	放送大学での学びと出会い	香　川
	鈴木　一三	「かしこくなる患者学」との出会い	茨　城
	高橋　昌子	学びの贈り物	千　葉
	徳田　育子	学びは煌く自分に出会う旅	徳　島
	古田　隆子	「はじまりの風」によせて	愛　知

MANABEE'S CAFÉ

南関東FMラジオ3局で放送

専任教員が各自の専門分野を紹介しながら、学ぶ楽しさについてDJと語り合うラジオ番組「放送大学マナビーズカフェ」を2010年も継続して提供した。

12月からは装いも新たに司会に知性派お笑い芸人として人気上昇中の“ロザン”を起用、南関東FMラジオ3局（千葉bayfm、埼玉NACK5、神奈川Fmyokohama）で放送された。

■ 出演者リスト

12月第1週～第3週	小野けい子教授（臨床心理学）
12月第4週～1月第1週	井口篤准教授（中世英文学）
1月第2週～第4週	杉浦克己教授（国語学）
2月第1週・第2週	宮田英里アナウンサー

収録現場の司会「ロザン」と小野教授

BSデジタル放送開始に向けて

放送大学学園では、2011年10月よりBSデジタル放送を開始する予定である。これに伴い、現在行なっているCS放送（スカパー！SD）は2012年3月末をもって終了することとなる。BSデジタル放送によって、高画質映像の提供、3番組の同時放送、データ放送の提供が全国エリアで可能となるなど、学習環境の一層の向上が期待される。現在、CS放送で視聴している学生は、BSデジタル放送の受信機器等への切り替えが必要になるため、「学生生活の栞」や「大学の窓」等さまざまなメディアにより周知を図っているところである。

新校舎の建設

東京文京学習センター

現在建て替え中の東京文京学習センター（文京区の筑波大学東京キャンパス内）は、2011年10月に新校舎が完成する予定である。放送大学は主として地上6階地下1階建てビルの、地下1階と2・3階を使用する。

教室等の収容人数は、建て替え前に比べてほぼ倍となり、大学院教育やICT等にも対応した多様な教室を設置する予定である。また、広く明るい学生ホールや筑波大学と一体型の図書館等、学生サービスをより充実するよう、現在筑波大学と本学が共同で整備を進めており、生涯学習の拠点として期待が高まっている。

文京学習センター完成イメージ図

データで見る放送大学の概要

教職員数

[単位：人]

役　員	7	※1
学　長	1	
副学長	3	※2
教　員	87	
事務職員	255	
合　計	355	※3

（2010年度）

※1　学長（理事）、副学長（理事）を含む
※2　副学長（理事）を含む
※3　重複があるため合計は一致しない

在学生数

[単位：人]

教養学部	
学生の種別等	在学生
全科履修生	50,131
選科履修生	17,437
科目履修生	8,326
特別聴講学生※	3,560
合　計	79,454

（2010年度第2学期）

大　学　院	
学生の種別等	在学生
修士全科生	1,175
修士選科生	3,579
修士科目生	934
合　計	5,688

（2010年度第2学期）

集中科目履修生	
学生の種別等	在学生
学校図書館司書教諭講習	827
看護師資格取得に資する科目	493
合　計	1,320

（2010年度）

※特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との単位互換協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です。

入学者数

[単位：人]

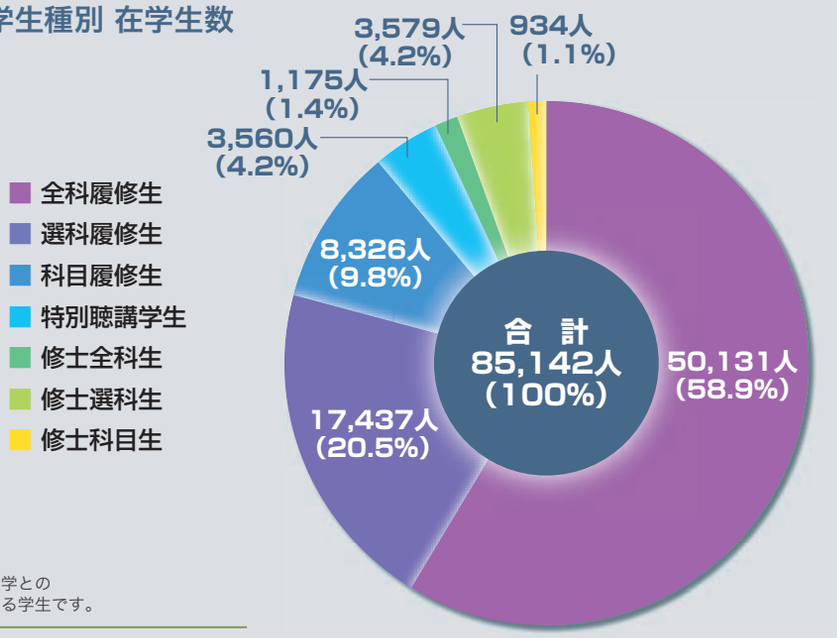
教養学部			
学生の種別等	1学期	2学期	合　計
全科履修生	7,790	3,948	11,738
選科履修生	11,826	5,621	17,447
科目履修生	7,071	8,326	15,397
特別聴講学生	1,558	3,560	5,118
合　計	28,245	21,455	49,700

（2010年度）

大　学　院			
学生の種別等	1学期	2学期	合　計
修士全科生	407	—	407
修士選科生	2,674	879	3,553
修士科目生	798	934	1,732
合　計	3,879	1,813	5,692

（2010年度）

学生種別 在学生数



単位互換協定締結校数

[単位：校]

学校の種別	校数
大　学	253
短　大	86
高　専	9
大学院	6
合　計	354

（2011年2月現在）

学部卒業者数

[単位：人]

1学期	2学期	合計	累計
1,879	3,033	4,912	65,721

（2010年度）

大学院修了者数

[単位：人]

1学期	2学期	合計	累計
8	348	356	3,164

（2010年度）

〒261-8586 千葉市美浜区若葉2-11
TEL:043-276-5111（総合受付）
http://www.ouj.ac.jp/

発行日/2011年3月31日